グループ選択と現象学の死んだ手-「個性と絡み合い」のレビュー（Individuality and Entanglement）by Herbert Gintis **(2017)**

（レビューは2019年に改訂されました）

Michael Starks

抽象

Gintisはシニアエコノミストで、私は興味を持って彼の以前の本のいくつかを読んだので、私は行動にいくつかのより多くの洞察を期待していました。悲しいことに、彼はグループ選択と現象学の死んだ手を行動理論の中心にし、これは主に仕事を無効にします。さらに悪いことに、彼はここでそのような悪い判断を示しているので、それは彼のすべての前の仕事に疑問を呼びかけます。ハーバード大学で彼の友人によるグループ選択を復活させようとする試みは、　ノワクとウィルソンは、数年前に生物学の主要なスキャンダルの一つであり、私は私の記事「利他主義、イエスと世界の終わり--テンプルトン財団がハーバード大学教授職を買収し、進化、合理性と文明を攻撃した方法-E.O.ウィルソンのレビュー」(2012年)とノワクとスーパーフィールド(2012)で悲しい話を述べました。ノワクとは異なり、ギンティスは宗教的狂信によって動機づけられているようには見えないが、基本的な人間の生物学と行動科学者、他の学者、および一般市民の空白のスレート主義の(ほぼ普遍的な)理解の欠如によって容易になった人間性の厳しい現実に代わるものを生み出したいという強い願望によって。

ギンティスは、行動を記述するための一貫した枠組みを持っていないために、エコノミスト、社会学者、その他の行動科学者を正しく攻撃します。もちろん、行動を理解するために必要なフレームワークは進化的なものです。残念ながら、彼は自分自身を提供することができず(彼の多くの批評家と私は同意します)、彼が何十年もの仕事で生み出した経済的、心理的理論にグループ選択の腐った死体を移植しようとする試みは、単に彼のプロジェクト全体を無効にします。

Gintisはウィルソンやノワクのような遺伝学を理解し、説明するために勇敢な努力をしていますが、彼は専門家から遠く離れており、彼らのように、数学は生物学的不可能に彼を盲目にし、もちろんこれは科学の標準です。ヴィトゲンシュタインが文化と価値の最初のページで有名に指摘したように、「形而上学的表現の誤用が数学ほど多くの罪を引き起こし続けている宗教的宗派はありません。

自らの頻度を低下させる行動を引き起こす遺伝子は持続できないことは常に明らかでしたが、これはグループ選択の概念の中核です。さらに、グループの選択は、ドーキンスが指摘したように、自然選択による進化のもう一つの名前である包括的なフィットネス(親族選択)に減少することがよく知られており、しばしば実証されています。ウィルソンのように、Gintisは約50年間この分野で働いてきましたが、スキャンダルが起こった後、私の記事に詳述されているように、最も関連性の高い専門的な仕事を見つけ、読み、理解するのに3日しかかかりませんでした。ギンティスとウィルソンが半世紀近くでこれを達成できなかったことに気づくのは気が遠くなる。

アメリカと世界を破壊している人間性を理解する普遍的な失敗の特別なケースとして、アカデミアで当たり前であるグループ選択と表現論の誤りについて議論します。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、「話す猿--運命の惑星における哲学、心理学、科学、宗教、政治--記事とレビュー2006-2019第3回(2019)と自殺ユートピア妄想21^{世紀}4^{日}(2019))を参照してください。

Gintisはシニアエコノミストで、私は興味を持って彼の以前の本のいくつかを読んだので、私は行動にいくつかのより多くの洞察を期待していました。悲しいことに、彼はグループ選択と現象学の死んだ手を行動理論の中心にし、これは主に仕事を無効にします。さらに悪いことに、彼はここでそのような悪い判断を示しているので、それは彼のすべての前の仕事に疑問を呼びかけます。ハーバード大学で彼の友人によるグループ選択を復活させようとする試みは、　ノワクとウィルソンは、数年前に生物学の主要なスキャンダルの一つであり、私は私の記事「利他主義、

イエスと世界の終わり--テンプルトン財団がハーバード大学教授職を買収し、進化、合理性と文明を攻撃した方法-E.O.ウィルソンのレビュー」(2012年)とノワクとスーパーフィールド(2012)で悲しい話を述べました。ノワクとは異なり、ギンティスは宗教的狂信によって動機づけられているようには見えないが、基本的な人間の生物学と行動科学者、他の学者、および一般市民の空白のスレート主義の(ほぼ普遍的な)理解の欠如によって容易になった人間性の厳しい現実に代わるものを生み出したいという強い願望によって。

ギンティスは、行動を記述するための一貫した枠組みを持っていないために、エコノミスト、社会学者、その他の行動科学者を正しく攻撃します。もちろん、行動を理解するために必要なフレームワークは進化的なものです。残念ながら、彼は自分自身を提供することができません(彼の多くの批評家と私は同意します)、そして彼が彼の数十年の仕事で生み出した経済的、心理的理論にグループ選択の腐った死体を移植しようとする試みは、単に彼のプロジェクト全体を無効にします。

Gintisはウィルソンやノワクのような遺伝学を理解し、説明するために勇敢な努力をしていますが、彼は専門家から遠く離れており、彼らのように、数学は生物学的不可能に彼を盲目にし、もちろんこれは科学の標準です。ヴィトゲンシュタインが文化と価値の最初のページで有名に指摘したように、「形而上学的表現の誤用が数学ほど多くの罪を引き起こし続けている宗教的宗派はありません。

自らの頻度を低下させる行動を引き起こす遺伝子は持続できないことは常に明らかでしたが、これはグループ選択の概念の中核です。さらに、グループの選択は、ドーキンスが指摘したように、自然選択による進化のもう一つの名前である包括的なフィットネス(親族選択)に減少することがよく知られており、しばしば実証されています。ウィルソンのように、ギンティスは約50年間このアリーナで働いてきましたが、ウィルソンスキャンダルが壊れた後、私の記事に詳述されているように、最も関連性の高い専門的な仕事を見つけ、読み、理解するのに3日しかかかりませんでした。ギンティスとウィルソンが半世紀近くでこれを達成できなかったことに気づくのは気が遠くなる。

ノワク、ウィルソン、タルニータの論文がネイチャーに掲載された数年後、いくつかの集団遺伝学者は、それが茶碗の中の嵐であることを再び決定的に示し、この問題に関する章と詩を述べました。Gintisは、彼の友人のように、このことについて有能な生物学者に尋ねることができず、自然の中でこのナンセンスの出版に抗議する手紙に署名した140人の有名な生物学者を見当違いと考えているのは最も残念です。それは私が知っている近接の最良のアカウントなので、私は私の論文にゴーリーの詳細をしたい人を参照してください。 詳細については、Dawkinsの記事「エドワード・ウィルソンの降下」を参照http://www.prospectmagazine.co.uk/magazine/edward-wilson-social-conquest-earth-evolutionary-errors-origin-species。 ドーキンスが書いたように、「ウィルソンが彼のプロの同僚の大多数に対して自分自身のために話すことを認めないためには、生涯の英雄、つまり傲慢な行為を言うのは苦痛です」。悲しいことに、ギンティスはそのような魅力的な会社に同化しました。https://www.youtube.com/watch?v=lBweDk4ZzZ4のようないくつかの素敵なドーキンスのユーチューブもありますhttps://www.youtube.com/watch?v=lBweDk4ZzZ4。

ギンティスはまた、すべての社会科学に欠けている行動の枠組みを提供することができませんでした。一つは、合理性のための論理的な構造を持っている必要があります, 思考の2つのシステムの無いダースタンディング (二重プロセス理論), 事実の科学的な問題と問題の文脈で言語がどのように動作するかの哲学的な問題の間の分割, そして還元主義とサイエンティズムを避ける方法の, しかし、彼は、 行動のほぼすべての学生のように, ほとんど手がかりがありません.彼は、彼らと同じように、モデル、理論、概念、そして説明したいという衝動に魅了されていますが、ヴィトゲンシュタインは、私たちが記述する必要があり、理論、概念などは、明確なテストを持っている限り価値のある言語(言語ゲーム)を使用する方法に過ぎないことを示しました(明確な真実主義者、または著名な哲学者ジョン・サールが言いたいのが好きです)。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、「話す猿--運命の惑星における哲学、心理学、科学、宗教、政治--2006-2019第2回(2019年)と自殺ユートピア妄想(2019st Century 4th年)の記事とレビュー」を見ることができます。

半世紀の忘却の後、意識の性質(意図的性、行動)は今や行動科学と哲学の中で最もホットな話題となっています。1930年代(青と茶色の本)から1951年までのルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインの先駆的な作品から始まり、彼の後継者サール、モヤール・シャーロック、リード、ハッカー、スターン、ホーウィッチ、ウィンチ、フィンケルシュタインなどによる50年代から現在まで、私はこの研究を進めるためのヒューリスティックとして次のテーブルを作成しました。行は様々な側面または研究方法を示し、列は、理性の論理的構造(LSC)の2つのシステム(二重プロセス)

を含む不随意のプロセスと自発的行動を示しており、合理性の論理構造(LSR-Searle)、行動(LSB)、人格(LsSP)、マインド(LSM)、言語(LSL)、現実の言語(LSOR)、哲学的な哲学的な用語の(LSOR)意識の記述心理学(DPC)、思考の記述心理学(DPT)、より良い、思考の記述心理学(LDPT)の言語、ここで紹介された用語、そして私の他の非常に最近の著作。

このテーブルのアイデアは、Searleのはるかに単純なテーブルであるヴィトゲンシュタインの作品に由来し、P.M.Sハッカーによる人間の性質に関する3つの最近の本の広範なテーブルとgr　aphsと相関しています。最後の9行は、主にジョナサン・セント・B・T・エヴァンスらの意思決定研究から来ています。

システム1は不本意で、反射的または自動化された「ルール」R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」R2であり、意欲(Volition)は3つのギャップを有する(サール参照)。

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。 話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」S1は、S2がコンテンツを持ち、下向きに因果関係(世界への心)を持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のいかない(表現や情報を欠いている)だけです。 行動をより明確に説明する私はこの表の用語を採用しました。

私は他の著作でこのテーブルの詳細な説明をしました。

言語ゲームの分析から

	好きになる傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI * *	IA * * *	アクション/語
原因は* * * *	世界	世界	世界	世界	マインド	マインド	マインド	マインド
に変更を加える * * * **	なし	マインド	マインド	マインド	なし	世界	世界	世界
因果関係自己再帰******	ない	はい	はい	はい	ない	はい	はい	はい
真または偽（テスト可能）	はい	真実のみ	真実のみ	真実のみ	はい	はい	はい	はい
公開テスト (COS)	はい	はい/いいえ	はい/いいえ	ない	はい/いいえ	はい	ない	はい
記精神状態の説明を提供します	ない	はい	はい	はい	ない	ない	はい/いいえ	はい
進化的優先事項	5	4	2、3	1	5	3	2	2
コンテンツを選択できます	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
自発的スタート	はい ない	ない	はい	ない	はい・いいえ	はい	はい	はい
認知システム *******	2	1	2/1	1	2/1	2	1	2
強さの変化	ない	はい	はい	はい	はい	ない	ない	ない
正確な期間	ない	はい	はい	はい	ない	ない	はい	はい
異なる場所、異なる時間（TT）現在の時刻と場所（HN）********	TT	HN	HN	HN	TT	TT	HN	HN
特別な品質	ない	はい	ない	はい	ない	ない	ない	ない
体の一部に局在	ない	ない	ない	はい	ない	ない	ない	はい
身体表現	はい	はい	ない	ない	はい	はい	はい	はい
自己矛盾	ない	はい	ない	ない	はい	ない	ない	ない
自己が必要	はい	はい/いいえ	違います	違います	はい	違います	違います	違います
必要な言語	はい	ない	ない	ない	ない	ない	ない	はい/いいえ

意思決定研究から

	好きになる傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI * *	IA * * *	アクション / 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想（A） ルールベース（RB）	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存（CD） 抽象化（A）	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル（S） 平行（P）	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック（H） 分析（A）	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリジェンス依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進（F）または抑制（I）	I	F/I	F	F	I	I	I	I

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

** Searleの以前の意図

*** Searleの意図の実行

**** Searleのフィット方向

*****サールの因果関係

******（精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします）。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。
******* Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。
********異なる場所、異なる時間（TT）現在の時刻と場所（HN）

これは、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻の様々なテーブルやチャートとこれを比較することが興味深いです。特定の文脈で言語の可能な用途(意味、真実作成者、満足の条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。彼は、哲学的な問題は、不適切な文脈での文章(言語ゲーム)の使用、したがって正しい文脈を示す唯一の解決策であることを示しました。

ギンティスは、本の早い段階で疑わしい、曖昧な、またはダウンライト奇妙な主張をし始めます。概要の最初のページから始まり、アインシュタインとライルからの無意味な引用が表示されます。pxiiでは、絡み合った心に関する「第三のテーマ」を始める段落は、言語ゲームがシステム2の機能であり、それがどのように機能するかを指定するために書き換える必要があり、人々が「意識的に信じている」ことによる行動を説明しようとする第4のテーマは正しいです。つまり、「非重要主義」では、意識的な言語システム2によって仲介される「利他的」グループ選択とし

ての行動を「説明」しようとしています。しかし、進化的な長期的な見解を取るならば、それは明らかにシステム1の無意識の操作によって仲介される包括的なフィットネスを提供しようとする相互利他主義によるものです。同様に、第 5 テーマと、その他の概要の場合も同様です。彼は合理的な選択を支持していますが、これは正確なコンテキストを指定する必要がある言語ゲームであり、システム1とシステム2の両方が「合理的」ですが、まったく異なる方法であるとは考えられません。これは、サールが現象学的錯覚、ピンカーブランクスレートとトゥービーとコスミデスを「標準的な社会科学モデル」と呼んでいる行動のほとんどの記述の古典的なエラーであり、私は私の他のレビューや記事で広く議論してきました。私たちの行動のほとんどが非言語的なシステム1によって自動化されており、意識的な言語システム2が主に私たちの強迫的で無意識的な選択の合理化のためであることを理解しない限り、つまり、ほぼ普遍的なものだけでなくそれは非常に表面的な行動観以上のものを持つことはポッシブレではありません。その結果、その結果はアカデミアをはるかに超えて広がり、産業文明の不可解な崩壊をもたらしている妄想的な社会政策を生み出す産業の容赦のない崩壊。私の「アメリカと世界のための民主主義の死刑執行人による自殺」を参照してください。アメリカとヨーロッパの民主主義国家が第三世界の市民が皆の未来を破壊するのを助けるのを見るのは息をのむようなものです。

pxiiiでは、「非結果主義者」(すなわち、明らかに「真の」利他的または自己破壊的な行動)を、実際に相互利他主義を行っているとして記述することができます。 EEA(進化適応の環境—すなわち、私たちの非常に遠い祖先の環境)で進化した遺伝子による包括的なフィットネスを提供し、腹側テグメンタムおよび側坐核のドーパミン作動回路を刺激し、その結果、ドーパミンが放出され、薬物乱用からのすべての中毒性の行動に関与しているように見えるのと同じメカニズムサッカーママに。

そして、「このような環境の文脈では、そのような環境の「現状」、すなわち非遺伝的な「チャネル」を介した伝達に関するそのような「情報」の「エピジェネティック伝達」に対する適性の利点がある。これは「文化的伝達」と呼ばれています[恐怖は私のを引用する]。また、その「文化」は脳内で「直接コード化」され(p7)、遺伝子文化の共進化の主な原則であり、民主的な制度と投票は利他的であり、私利私欲(p17-18)の観点からは説明できない。これらの独特の見解の主な理由は、彼が最終的に彼がグループ選択主義者であることを明らかにするとき、p186まで本当に出てこない。包括的なフィットネス以外にグループ選択のようなものはないので、これは単なる行動のもう一つの支離滅裂な記述、すなわち、トゥービーとコスミデスが有名に標準社会科学モデルまたはピンカー「ブランクスレート」と呼んだものは驚くべきことではありません。

彼がp188で「利他的遺伝子」と呼ぶものは、「凝固性フィットネス遺伝子」または「親族選択遺伝子」と呼ばれるべきです。ギンティスはまた、遺伝子文化の共進化の考えに非常に感銘を受けていますが、これは自然選択(,包括的なフィットネス)の文脈の中でのみ起こり得ることを理解していません。ほぼすべての社会科学者(および科学者、哲学者など)と同様に、「文化」「共進化」「エピジェネティック」「情報」「表現」などは、COS(満足の条件、真実のテスト)が絶妙に敏感な複雑な言語ゲームの家族であるという彼の心を決して打ち込まなかった。特定のコンテキストがなければ、何の意味も持たない。だから、この本では、行動に関する文献のほとんどと同様に、意味のない意味(意味または明確なCOS)の外観を持つ多くの話があります。

私たちの遺伝子のほとんどが培養の結果であるというpxvに関する彼の主張は、例えば、私たちが約98%チンパンジーであることをよく知られているように、明らかに非常識です。彼が言語に関連するものを意味する場合にのみ、私たちの遺伝子の一部が文化的選択の対象となっている可能性を受け入れることができ、すでに存在していたこれらの単に改変されたものでさえ、すなわち、いくつかの塩基対が各遺伝子の数十万または数百万から変更された可能性を受け入れることができます。

彼は経済行動の「合理的な俳優」モデルに多くを取られています。しかし、,再び、S1のオートマチックは、すべての「合理的な」行動とS2の意識的な言語的審議がそれらなしでは起こりえないことに気づいていない。多くの人と同様に、おそらく現在の若い学生の行動の大半は、私は警察の監視と一時的な豊富な資源が地球を襲い、私たち自身の子孫を奪うことによって得られる現代的な文脈で利己的な遺伝学の働きの簡単に理解可能な結果として、すべての人間の活動, 入手した
地球を強姦し、自分の子孫を奪うが相対的な一時的な静けさにつながると見ています。この関連で、私はピンカーの最近の本の私のレビューを提案します - 私たちの自然の最悪の悪魔の一過性の抑圧 - 私たちの自然のより良い天使のレビュー。.

多くの行動は真の利他主義のように見えますが、いくつかは(すなわち、彼らをもたらす遺伝子の頻度を減少させるでしょう-すなわち、自分の子孫の絶滅につながる)が、ギンティスが逃すポイントは、これらはEEAのアフリカ平原

の小さなグループでずっと前に進化し、理にかなった心理学によるものであるということです(すなわち、. それは、数十から数百人のグループの誰もが私たちの近親者だったとき、包括的なフィットネスだったので、私たちはしばしば、彼らがもはや意味をなさないにもかかわらず、これらの行動を続けました(すなわち、彼らはそれを可能にした遺伝子の頻度を減らすことによって私たちの遺伝的適性を低下させる無関係または遠い関連者の利益に役立ちます)。これは、多くの行動が、原産の利己的ではなく「本当に利他的」であるという考えを促進する彼を説明している(宗派3.2など)。彼はこれを指摘し、人々が小さな選挙で振る舞う「分散効果」(p60-63)と呼んでいますが、これは「真の利他主義」の遺伝子によるものではなく、もちろん利己的な相互利他主義(包括的なフィットネス)の遺伝子によるものであると見なしません。したがって、人々は、彼らがそうではないことは明らかであるにもかかわらず、彼らの行動(例えば、彼らの投票)が結果的であるかのように振る舞います。 例えば、アメリカ大統領選挙の結果を決定する1人の投票の可能性は、数百万から数千万から1の範囲であることをネット上で見つけることができます。もちろん、宝くじに当たる可能性も同じですが、誤動作したEEA心理学は宝くじを作り、非常に人気のある活動に投票します。

彼はまた、進化心理学(EP)で使用される行動を記述する標準的な用語と方法を知らないようです。例えば、pg. 75では、社会的行動の規範に関するArrowの記述は、現在の環境で動作しようとするEEAのEPとしてではなく、経済的な用語で記述されており、ページの下部では、人々は「利他的な」パ罰者(すなわち「グループ選択主義者」として)としてではなく、包括的なフィットネス処罰者として行動する。p 78では、被験者が「道徳的に」または「自分のために」規範と一致して行動すると言うことは、再びグループ選択主義者/フェノメノロジカルな錯覚を受け入れることであり、明らかにそれは詐欺師の検出や罰のようなよく知られたEPメカニズムを介して彼らの包括的なフィットネスを高めようとしている遺伝子のグループです。 繰り返しますが、p88では、彼が他の利己的な行動として述べているものは、大きな社会に迷い込む相互利他主義の自己に関する試みと同じくらい簡単に記述することができます。 ,

当然のことながら、彼は「主観的な前置きは条件付き確率として解釈されなければならない」などの標準的な経済学の専門用語を使用することが多く、これは特定の結果(p90-91)の可能性に対する信念を意味し、「共通の主観的前任者」(共通の信念)p122を意味します。本や行動の多くは、しばしば「私たち意図的」または社会的現実の構築と呼ばれるものに関するものですが、この分野で最も著名な理論者であるジョン・サールは議論されておらず、COSやDIRA(行動のための独立した理由を望む)などの彼の現在の標準的な用語は現れない、彼はインデックスに載っていない、そして彼の多くの作品のうちの1つだけと、20歳以上のことが、文献目録に記載されている。

彼はp97でベイズの更新について好意的にコメントしており、成功の意味のあるテストがないことは有名です（つまり、明確なCOS）。事後の彼らの行動を説明する。

しかし、第5章の主な問題は、「合理的」などの用語は、非常に特定の文脈以外に意味を持たない複雑な言語ゲームであり、ここでは一般的に欠けていることです。もちろん、ヴィトゲンシュタインが示したように、これは行動のすべての議論の中核的な問題であり、ギンティスは行動科学コミュニティのほとんど(または少なくとも40歳以上の人々のほとんど)を共謀者として持っています。同様に,、第6章のように、「複雑性理論」、「出現特性」「マクロとマイクロレベル」、非線形動的系、および「モデル」(ほとんど何でも意味し、ほとんど何でも「記述」)の生成について議論していますが、重要なのは予測だけです(すなわち、明確COS)。

彼の現象学的幻想(すなわち、私たちの意識的な審議が過去40年間の社会心理学のほぼすべての研究と対立して行動を記述し、制御するというほぼ普遍的な仮定)にもかかわらず、彼はまた、社会科学がコア分析理論を持っていないのか疑問に思って、還元主義者の妄想を共有しています。これは、社会科学や哲学の中で頻繁に主題であり、その理由は、より高い秩序の心理学が原因によって記述できないが、理由によって、心理学を生理学や生理学を生化学に消すことも、物理学にすることもできないからです。彼らはちょうど異なると説明の不可欠なレベルです。サールはそれについて頻繁に書き、ヴィトゲンシュタインは80年前にブルーブックでそれを有名に説明しました。

「私たちの一般性への渇望は、一つの情報源を持っています.科学の方法に対する私たちの先入観。私は自然現象の説明を可能な限り少数の原始的な自然法則に減らす方法を意味します。そして、数学では、一般化を用いて異なるトピックの扱いを統一する。哲学者は常に自分の目の前に科学の方法を見て、科学のように尋ねて答え、たまらなく誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な暗闇に導きます。私はここで、何かを減らすことや何かを説明することは決して私たちの仕事ではないだろうと言いたい。哲学は本当に「純粋に記述的」です。

彼はまた、人々が利他主義(すなわち、グループ選択)を内部化しているので素敵になるだろうと考え、人口増加が制御されているとき、実際には2100年(p133)までにさらに40億人の予測があると、暴力が増加しており、見通しは確か

に厳しいです。

彼は「社会学のための学術的ニッチを切り開く」(p148)する必要性を見ていますが、全体の議論は典型的なちんぷんかんぷん(明確なCOSなし)であり、私たちが社会的な演劇で遊ぶ言語ゲーム(職場の心)の明確な試練であり、彼らが現代の文脈でどのように私たちの試みを示すかです。「本質的に倫理的な行動」(すなわち、グループ選択主義的利他主義)は、それが一時的な豊富な資源、警察、監視によるものであるという明白な事実を無視して、私たちの社会的行動を説明し、常にこれらを取り除くと、野蛮人はすぐに現れます(例えば、p151)。毎日起こっている何百万もの詐欺、強盗、強姦、暴行、窃盗、殺人に不注意な、忌まわしい理論の象牙の塔の世界に住んでいるとき、そのような妄想を維持するのは簡単です。

繰,り返します,が、何度も、(例えば、トップp170)、彼は自然選択である私たちの「合理性」、すなわちESS(進化的に安定した戦略)につながるEEAの包括的な適性、または少なくとも100,000〜300万年前の小さなグループで多かれ少なかれ安定していたという明白な説明を無視します。

ゲノムの社会学に関する第9章は、必然的に間違いや一貫性に満ちている——例えば、特別な「利他的遺伝子」は存在せず、むしろ、すべての遺伝子が包括的な適性を提供するか、消滅する(p188)。問題は、本当に利己的な遺伝学と包括的なフィットネスを得る唯一の方法は、それが間違っている理由を説明し、ドーキンス、フランクス、コインなどと一日の部屋にギンティスを持っているということです。しかし、いつものように、これが機能するためには、ある程度の教育、知性、合理性、正直さを持たなければならず、いくつかのカテゴリーで少し足りなければ成功しません。もちろん、人間の理解の多くにも同じことが言えますので、大多数はまったく微妙なものを得ることはありません。ノワク、ウィルソン、タルニータ紙と同様に、私はドーキンス、フランクスなどが喜んでこの章を調べ、それが迷子になる場所を説明したと確信しています..

大きな問題は、人々が包括的なフィットネスや潜在意識の動機によって自然選択の概念を把握しておらず、多くの人がそれらを拒絶するための「宗教的」動機を持っているということです。これには、一般の一般市民や非科学の学者だけでなく、生物学者や行動科学者の大部分が含まれます。　私は最近、トップレベルのプロの生物学者による利己的な遺伝子のアイデアの議論のドーキンスによる素敵なレビューに出くわしました, 彼はそれがどのように動作するかを把握していないことを説明するために一行ずつ彼らの仕事を通過しなければならなかった.しかし、彼のような少数の人々だけがこれを行うことができ、混乱の海は広大であり、この本を破壊し、アメリカと世界を破壊しているこれらの妄想は、女王がアリスに少し異なる文脈で言ったように、彼らが最後に来て停止するまで続きます。